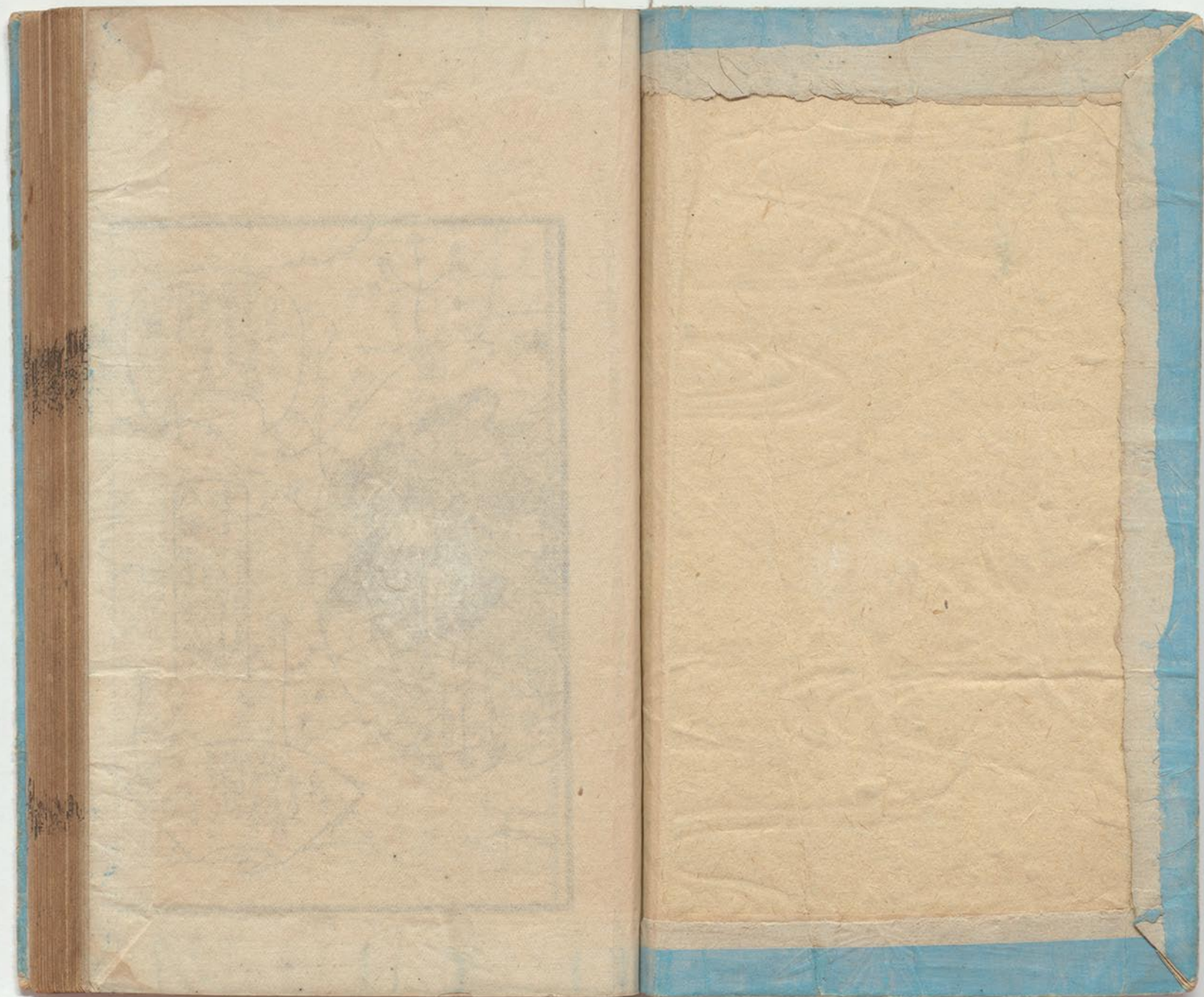


性理百人一音

全







仙之圖



遊
八
景

聖田 (めい) 一

かゝるうゐびある

唐律

かゝる世をうそふはあやう
かゝる世のま

之升映待

中川きく三升の入あひの
子

おい今もあまのたまは

だのふかひ



はらのやせう
は良き者
をとりはらふ

さうりふまじ

石山書院

もつゝありぬ

多
をそらふあじ

Syntherisma

澤田夕照

三ノ

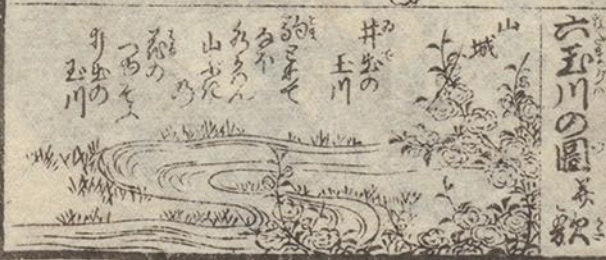
廿二



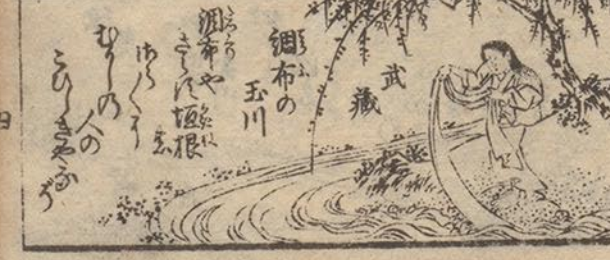
源氏五十四帖 十炷香の事



まきいりあかり
なほとけひき
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり



いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり
いりあかり



火舞 髮常 雲 蝶胡 壽 葛 女

[illegible]

津撮
衣の玉川
松岡の
あといふ
林たさひ
衣撮る
玉川の
里

顧陽出雲落風松合繪登閣生蓮標



士
その
毒なるの
内と海
まんが
へうた
主の道と情
とがふ
あふ



陸奥 野田の 玉川
 水色 ちり ちり
 玉川 玉川 玉川

幻 法 舞 夕 虫 池 笛 模 木 柏 葉 菊



紀伊
高野の玉川
波やあふらん
旅人の
たのむの
玉川に
あ

葉 菊 模 木 柏 葉 菊 模 木 柏 葉 菊



近江
野路の
玉川
あまの
のちの
玉川
あまの
のちの
玉川
あまの
のちの
玉川

源氏繪合終



めそふ
とてあを
つけるものニツのへんド
ちゆうーひさびさは図めと

瓶
子

をてふ東家松
也つりなとつける
ゆてふのう
東家まろ
東家なま
つばへ

提等



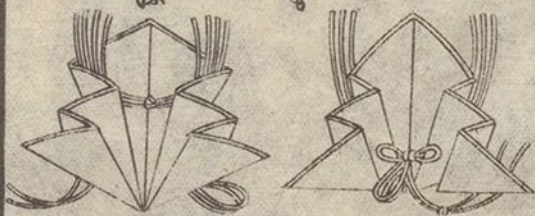
子

A row of seven decorative panels, each featuring a stylized geometric pattern above a traditional Chinese landscape or object illustration. The patterns are variations of the 'wan' symbol. The illustrations include: a stylized plant, a bow, a branch with leaves, a bridge over water, a landscape with a pavilion, a landscape with a pavilion, and a landscape with a pavilion.

雌蝶雄蝶の圖式

唯
嫌

古法の白紙
 白紙の白紙
 尚世の白紙
 紙の白紙
 用也



東松
粵の



糸 松 糸



婚禮之圖式

○結納の事

婦人、往來して、納米さ
 のして、婿の者ら、結納
 の役も、喜ば、ひれを
 今て、再び愛む、さ
 るき、夫婦の契、ゆ
 先上、練の小袖、校
 の袖、纏々、唐紙
 執宿、草履、白綾、一
 以上、三斗、楊、若、七、七
 肴に、下、納米、也
 一板の袖、纏々、唐紙、一、草

[illegible]

今に至るまで
 自をいふが如
 常の如くか
 く女の如き
 仰るるや
 ちの如き
 おきか
 人を
 大業



くわ
 父の
 主を
 とて
 おそれ
 こそ
 こそ



一人をかう
 する事
 怪しい事
 産物をあつた
 ひんねおす
 の心事
 短ふく人
 の心ふく人
 けり
 女の機根
 ちの万事
 人をそ



人の中云と企
 人れおひ
 男とほりむ
 衣たれ
 美を



中絶を欲す
 かきつた
 わく
 ありき
 秋うまよけ



石はえき
 夫もあつた
 人の子
 小智なり
 此の世
 此の世
 此の世
 此の世

安倍仲磨
 天
 あり
 出



夫の事
 一人の事
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟
 舟

ともあつては
 道と守る人を
 さしおこす
 人妻の時わが不
 機嫌ふほせ
 世とつて
 石けし
 可憐にうら



ひととせは
 片心ゆた
 かり先かき守



ともあつては
 道と守る人を
 さしおこす

小野小町

花の色

うつり

ちり

好まし



我をたててまゐ
るゝあゝふたゝ
それ天の陽をて
海く男の道き
地は海やう秋
なれとらる法
陽ふあふふ事
む地自出の道
聖るかゝる生輝
のちと天地た
うされまゝと天
のどくやまゝい

蟬九
あやあ
けもの
別
あな
建坂乃解



ふあはすま
天地のまあり
ゆきといひる
よりん人き
くまきまき
ふあはすま



けられりといふも
 式に若人あり
 あるいゝ悪人せ
 かる事法いと
 けあきよりい
 ふとて男子に
 肝をとり刃
 脩るこちと
 へむもろと
 女とてい
 づとの穢る此
 女と法の



〆とあつたかま
 ちく邪よりゆ
 事減るちや
 き吹牙子
 智く池の氣ふ



光孝天皇



あると知れ人言
おふと日月のま
本國までとて



御よがふとて
とてふとて

あはれ
孫原あはれ

うのえの

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



いぬてめい
なれやて穴受

小いふ流満れ



あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ



彙方百十條

元良親王

と小倉を流し、
あきつるふ中あつたはれ
に各々のたるまゝ一
たふべなり
○先づ「可普法牙」
二人を揚枝を
く事
一人おさめじとてそ
處をみぐり
一人あやせむを分
けをかへり
一人あやせむふりの
といふ事
一億年くして大なる



一 てもうひとへに
 一 けり事
 一 髪をゆききりて人
 一 弟(おろ)事
 一 袴ききりて人あへ
 一 けり事
 一 客にむとくあへ
 一 へ膝ふとあへ
 一 たり事
 一 ちの足もとすく
 一 わり事
 一 貴人の足もとすく
 一 ちの足もとすく
 一 ちの足もとすく

A black and white illustration of a man in traditional Japanese court attire, kneeling and holding a fan. He is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy. The text includes '大千里' (Dai-senryo) and '月' (Tsuki).

因をみるゆ
 人の女房うき
 とる事
 女房前のおや
 はけりちのや
 夢ある人の家内
 いひこゝか人の
 夢ある人の中世
 せ男おれ合と
 乃事
 なるをあるのあ
 こと
 人の
 人の
 人の



人の小刀うつしぬ
 ばはるもの
 人のたれもの
 くる事
 人のたれもの上あ
 ぐる事
 人のたれもの
 とふむ
 人のたれもの
 人のたれもの
 人のたれもの
 人のたれもの
 人のたれもの
 人のたれもの
 人のたれもの



世に名を馳せし事
 人の背理あるを
 うそいふ事
 人の心なるを
 かくし事
 我をよふ事



源宗千鶴
 山雲
 淋
 女と茶
 かみねとね

人の背理あるを
 うそいふ事
 人の心なるを
 かくし事
 我をよふ事



九河内身
 人あてふ
 初
 花
 菊

花御所のそとより
わきのさへからずして
携きててゝ （おかしな）
つき先人のさ死めを
つけさせおもしろく
布き定ぬ水きりを
さん之物をしてあつ
ふきをやめそれより
あかきやめたるのねを
やめてそのち又花御所
（おかしな）
もんでやむべし
小そで上へを上げ
てたみ能をうけて

[illegible]

有難くつゝありとわ
 ともしうにともなへ
 もめんよりふさまは下
 初はつ甘かんのの小こ波なみは
 あさりや上うへへ年とし々々
 世よのさうはあち

[illegible]

[illegible][illegible]

〇凡のむねを
 まゝなすといふ小刀も
 せめて柄のよいまゝ
 て刀のせよりむく座
 からのぬいさすむく
 柄輪さるふまより用
 じていゝ立ふり又と
 切りの見中のあやさ
 へふふり

A woodblock print illustration of a man in traditional Japanese court attire, seated and holding a long staff. He is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy. The background features a decorative border of stylized waves at the bottom.



て中にも入るなり
湖のそのさうなるは
うたふへんをいふ半
より上へても昔々
と業のあつたやうに
外にはあつた
○食ふふに

野ハ先^ノ生^シ熟^スニテ刺^シ創^ヲ
 二、要^ニ分^リて切^ル方^ナク多^クそ
 があ^リ。（イ）付^ケをうけを吸^ヒと
 あで^テ外^ニ出^サス。若^シ痺^レバ
 喰^フ切^リ付^キをな^メつと傷^ヲ
（ウ）不^レ垂^ル又^モ食^ムさう上^ニ止^ミ
 るひてその上^ニにをち
 上^ニを喰^フま^デてけり
 ぬあ^リのくき下^ニに乾^ク
 切^リ後^ノのたりのすこし不
（エ）あるま^デを喰^フべし其^ノ後^ニ
 ハどうも不^レ合^フてもうか
 片^ノ組^ミは食^ムふや
 其^ノ口^ノへたま^ニあ^リる飯^ヲ

大納言公任

然
帝

いさ

わねく

名

なすえけ



時ふいふ車くきふ
 べいばあつまりて
 人と押合ふいふ
 てかてそれふふ
 時ふいふ車くきふ
 るふふふふふふ
 度ふふふふふふ
 の再進ふふふふ
 都指ふふふふ
 ねふふふふふ
 ふふふふふふ
 ふふふふふふ
 ふふふふふふ
 ふふふふふふ



時ふいふ車くきふ
 べいばあつまりて
 人と押合ふいふ
 てかてそれふふ
 時ふいふ車くきふ
 るふふふふふふ
 度ふふふふふふ
 の再進ふふふふ
 都指ふふふふ
 ねふふふふふ
 ふふふふふふ
 ふふふふふふ
 ふふふふふふ
 ふふふふふふ



五十九のつむぎとせも
 糸の束すくなく
 市田のさる糸れ
 宣明に繪之奉
 押責押責と
 一科と
 右修く今迄は着可
 雨第一也
 月日
 備れか打をわとれ
 氏原長足園を便
 とき受く村をふり
 り人エむのさる中



中中の割れハ梨
 はあり
 割れあやとのさる
 地白をてまふ
 松とけるら
 といふ
 右の三八三六十二
 表するあり
 割れのさる地より





七夕に初め



後徳寺元大臣

郭公なるを

うそ

あが

ひせき

あけ

月

乃



一尺七緒の長さの糸

き号

宣長三條之幸

伐採山林の事

田島中

有傳衣を花菱者

速くも敷掛老也

のしお

月日

足る市物又ハ人知ると

川切で里の玉を不意と主

る又ハ今般りおぼの

おと

あま

み

星

あ

かん

侍

七ツに廟の
務めりて
言せしは
務のまゝ

年ごとに
言せしは
言せしは
言せしは

秋に
言せしは
言せしは
言せしは

乃固法師

あひひび

まきも

あま

あるを

うたふ

なま

なま



あゆの川
わんげ
まき
まき
まき

あひ
うでを
あひ
あひ
あひ

たの
あひ
あひ
あひ
あひ

集家集家集家

世の中

あひ

あひ

あひ

あひ

あひ



かゝるても
のちて わきまを
四月の 前よ
人々の笑 川
あれ そとや
ち かく の
あつたの
なれたもの
いと おもしろ
中世 うしろ
ひとがく ト

七名の つまね
 あまの なんや
 いさあや の
 なる なる
 まるき

おかたの
 ままに
 あまの
 つちと
 のそり



A woodblock print illustration of a seated figure, likely a deity or noble, wearing a patterned robe. The figure is surrounded by large, stylized Japanese calligraphy. The background features a decorative border with a repeating pattern of small squares and a wavy line at the bottom.

[illegible]

殷商沈痛
 尺せびや
 権の
 華の
 ぬ
 久

風を 吹く
 秋を 吹く
 きり 吹く
 まさ

江戸の 風を
 江戸の 風を
 江戸の 風を
 江戸の 風を

あさゆふ
 あさゆふ
 あさゆふ
 あさゆふ



秋を 吹く
 秋を 吹く
 秋を 吹く
 秋を 吹く

たれを 吹く
 たれを 吹く
 たれを 吹く
 たれを 吹く

秋を 吹く
 秋を 吹く
 秋を 吹く
 秋を 吹く



あき まへ あき まへ あき まへ あき まへ	あき まへ あき まへ あき まへ あき まへ	あき まへ あき まへ あき まへ あき まへ
--	--	--



あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ

あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ

あき まへ あき まへ あき まへ あき まへ	あき まへ あき まへ あき まへ あき まへ	あき まへ あき まへ あき まへ あき まへ
--	--	--



あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ

あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ
あき
まへ

佳日人

六

禮記

73



関明
小説

春雨文庫

第四編より
近世の烈婦孝女乃傳統を
引續て出版
記しる面白き繪巻なり

松村春輔編輯
復古物語

初編より
八編まで
出版

建八明治太平記の前篇から嘉永
六年西米利が使節相州浦賀へ来船
以来明治元年伏見戦争迄巻く
事なり面白き書也

和田定節編輯
参考鹿兒島新誌

半紙本
初編より六編
迄全冊十五冊

此書西國征討の始末を詳細に
書き第一の實録なり

東京書肆

大島屋

武田傳右衛門

弥生門町に書地

東京書報

大藏

左田御式南門

武蔵二門

参差燕兒鳥陳詩

中田天南

並金物土正興
時無り大蔵

本より第一の天候
地毒而因用治の故者主特賦

劇古夢幽語

時無り大蔵

八瀬
山神

本より第一の天候
地毒而因用治の故者主特賦

小遊
関即

春雨文車

信氣山神
類四職

本より第一の天候
地毒而因用治の故者主特賦

後通
標
竹
子